

2019年『家族農業の10年』スタート

未来を耕す農的社會に向けて

『家族農業の10年』のスタートに向けて

2019年の10年を「家族農業の10年」としてスタートさせる。その意義は、農業の持続可能性を高め、食料の安全保障を確保することにある。また、農村の活性化や、地域経済の発展にも貢献する。この10年を、家族農業の発展の機会と捉え、積極的に取り組んでいく必要がある。



農的社會デザイン研究所 代表 舘谷 栄一氏 へ聞く

農業の持続可能性を高めるには、技術や管理の革新が必要である。また、農村の活性化や、地域経済の発展にも貢献する。この10年を、家族農業の発展の機会と捉え、積極的に取り組んでいく必要がある。

「国民皆農」みんなが農に触れて

自立・自治・協同、各国との共生を

日本社会の課題からみた今の農政のあり方

対策での自民党の取り組み。口農業者だけでなく、自給自足の市民や、多様な担い手も地域性・特長を生かして多様な農業を営んでいく必要がある。

その政策へのこれからの取組みは、

「未来を耕す農的社會」を上市した意義

「これからの活動について」

2019年の10年を「家族農業の10年」としてスタートさせる。その意義は、農業の持続可能性を高め、食料の安全保障を確保することにある。また、農村の活性化や、地域経済の発展にも貢献する。この10年を、家族農業の発展の機会と捉え、積極的に取り組んでいく必要がある。

日本社会の課題からみた今の農政のあり方

対策での自民党の取り組み。口農業者だけでなく、自給自足の市民や、多様な担い手も地域性・特長を生かして多様な農業を営んでいく必要がある。

その政策へのこれからの取組みは、

「未来を耕す農的社會」を上市した意義

「これからの活動について」



循環・自給を創出 生きにいい循環、健全・分業社會 農に参画し、生活に融れる体験が欠かせない。 きたるべき農的社會の模範と多様な展開